

CASBEE®広島

(2010年ver. 1)

■使用評価マニュアル: CASBEE広島 2009年版 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ライオンズ宇品西	階数	地上15F
建設地	広島市南区宇品西四丁目1322-6	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	263 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2010年9月10日
敷地面積	3,074 m ²	作成者	株U建築設計事務所 柴崎 和彦
建築面積	834 m ²	確認日	
延床面積	6,645 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 大項目の評価(レーダーチャート)		2-3 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE = 1.6				参照値 評価対象 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ B-: ★ C: ★					
100 G 環境負荷 L	3.0 1.5 BEE=1.0 A B+ B- C 50 0	Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境	100% 77% 0 40 80 (kg-CO ₂ /年・m ²)		

2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q のスコア = 3.3		LR のスコア = 3.5	
Q 環境品質		Q1 室内環境	Q1 のスコア = 3.9	Q2 サービス性能	Q2 のスコア = 3.3
		音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	2.7 4.8 3.9 3.6	機能性 耐久性・信頼性 対応性・更新性	3.5 3.3 3.1
LR 環境負荷低減性		Q3 室外環境 (敷地内)	Q3 のスコア = 2.4	LR のスコア = 3.5	LR3 のスコア = 3.7
		生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ	1.0 3.0 3.0		
LR1 エネルギー	LR1 のスコア = 3.7	LR2 資源・マテリアル	LR2 のスコア = 3.0	LR3 敷地外環境	LR3 のスコア = 3.7
建物の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用	3.0 3.0 4.9 対象外	水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避	3.4 2.9 3.2	地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮	4.8 3.6 2.8

3 広島市の重点項目			重点項目の総平均スコア = 3.5	
「地球温暖化対策」の推進 スコア = 3.8	「ヒートアイランド対策」の推進 スコア = 2.1	「長寿命化対策」の推進 スコア = 3.3		
設計の計画上段階に配慮した事項 住宅性能評価 省エネ対策等級3を確保。戸建開口部に遮熱低放射複層ガラス(Low-E)を採用。// 自然冷媒を用いたヒートポンプ蓄熱システムを採用。// 節水型便器、浴室・キッチンには節湯水洗の採用。/ 可能な限りCO ₂ の排出を削減。	設計の計画上段階に配慮した事項 広島市緑化推進制度の緑化率を確保。/ 雨水流出量の抑制、適切な駐車・駐輪スペースを確保。	設計の計画上段階に配慮した事項 住宅性能評価 劣化対策等級3を確保。/ 戸内給水は先分岐工法・排水管のコンクリート埋込なしとし、設備のメンテナンス・更新が可能なレベルを確保する。		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される